



# PISA

## IN FOCUS

# 9

education policy education policy education policy education policy education policy education policy education policy

### 学校の自律性とアカウンタビリティ： これらは生徒の成績と関係するののか？

- 教える内容、生徒の評価に関して学校の自律性が高い国ほど、生徒の成績が良い傾向にある。
- 学校が成績データを公にすることで結果に対する説明を行っている国では、資源配分において高い自律性を持つ学校ほど、自律性の少ない学校よりも生徒の成績が良い傾向が示されている。そのようなアカウンタビリティの取り決めがなされていない国では、資源の配置に関する自律性が高い学校ほど成績が悪い傾向にある。

学校の自律性の程度や種類は、国によってかなり異なる。近年、多くの学校がより自律した組織へと向かい、生徒や親、一般市民に対して教育成果のアカウンタビリティを負うようになってきた。PISA調査の結果では、自律性とアカウンタビリティが合理的に組み合わさったとき、生徒の成績が良いことが示されている。

資源の配置に関する学校の自律性は、チェコ、オランダ、非OECD加盟国・地域のブルガリア、マカオで最も高い。これらの国・地域全体で、90%以上の生徒が、教師の採用と解雇の権限を持っている学校に通っており、また90%以上の生徒が、地方や国の教育当局とともに予算の策定や配分に責任を持っている学校に通っている。反対に、ギリシャ、イタリア、トルコ、非OECD加盟国のルーマニア、チュニジアでは、80%以上の生徒が、教師の採用と解雇の権限をまったく持っていない（地方や国の教育当局のみがそれを行う）学校に通っている。

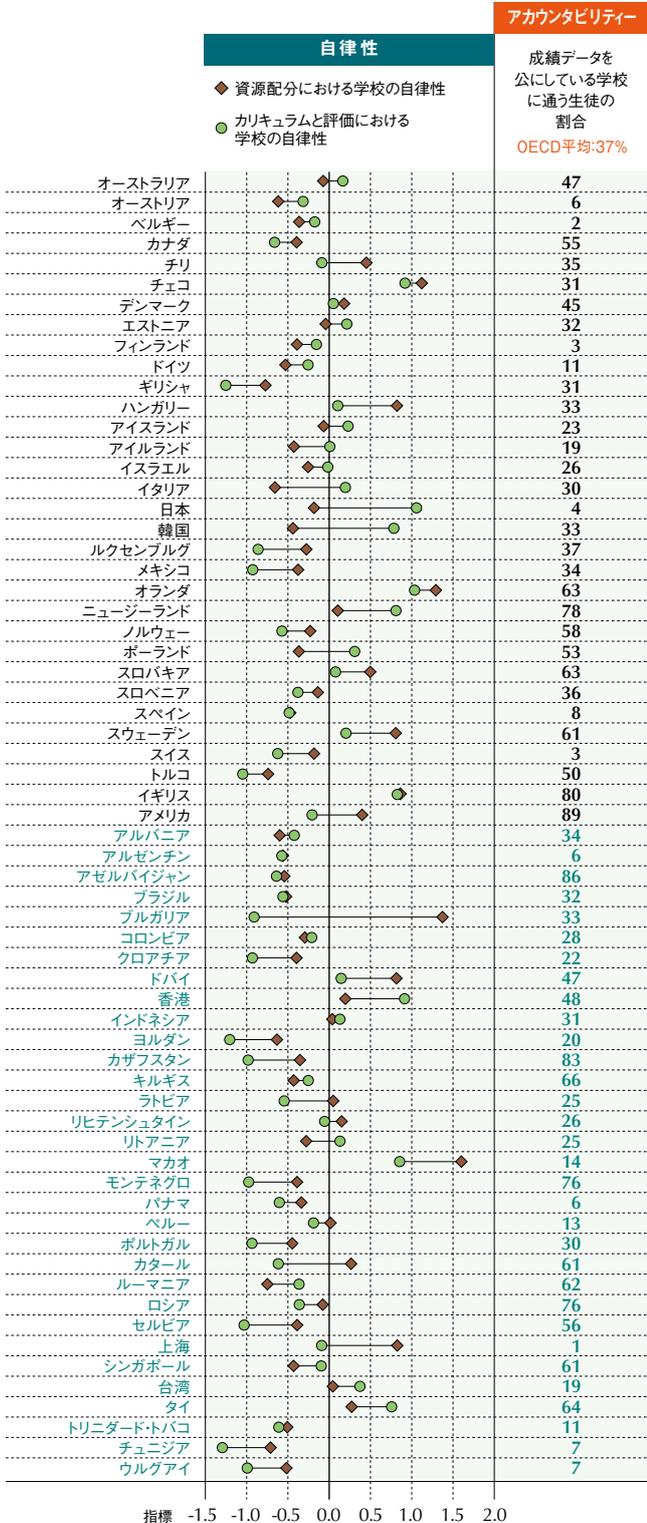
チェコ、オランダ、イギリス、非OECD加盟のマカオは、資源の配置だけでなく、カリキュラムや評価の決定においても、学校に与えられた自律性が最も高い。ギリシャとトルコ、非OECD加盟国のヨルダン、チュニジアは、カリキュラムや評価の決定、資源の配置においても、学校に最小限の自律性しか認めていない。日本、韓国、ニュージーランド、非OECD加盟の香港は、カリキュラムの選定や評価の実践において、比較的高い自律性を学校に与えている。これらの国・地域では、80%以上の生徒が、「生徒の評価方針の決定」、使用する「教科書の選定」、「履修コースの選定」に対してかなりの責任を負っている学校に通っている。しかしながら、これらの国・地域は、資源の配分に関しては、学校にあまり自律性を認めていない。対照的に、非OECD加盟国・地域のブルガリア、上海は、資源の配分に関しては比較的高い自律性を学校に認めているが、カリキュラムの選定や評価の実践については自律性を認めていない。



# PISA

## IN FOCUS

### PISA調査の参加国・地域全体での学校の自律性と アカウンタビリティのレベル



アカウンタビリティ  
成績データを  
公にしている学校  
に通う生徒の  
割合  
OECD平均:37%

### 学校の自律性は 生徒の成績と関係する…

国レベルでは、カリキュラムと評価を規定し、作成する責任のある学校が増えるほど、国民所得を考慮した後でさえ、学校制度全体の成績が良い。また、「生徒の評価方針」、「履修コース」、「履修内容」、使用する「教科書の選定」において、学校により多くの決定権を与えている学校制度は、全体的に読解力の得点が高い。カリキュラム作成の責任を持つことが、個々の学校では必ずしも良い成績に関係するとは限らないが、国レベルでは成績が良い傾向が見られる。

対照的に、資源配分における自律性と国レベルの成績との間には、明確な関係性が存在しない。これは、資源をどのように配分するかが、個々の学校のためにはなるが、制度全体の成績には必ずしも影響しないからであろう。

PISA調査のデータから、個々の学校の成績と、資源配分の自律性レベルには、正の関係がある国もあれば、負の関係がある国もある。例えば、チリ、ギリシャ、韓国、非OECD加盟国のペルーでは、資源の配分に自律性を持っている学校ほど読解力の成績も良いがスイス、非OECD加盟国のコロンビア、クロアチア、キルギスタン、タイでは、この分野で自律性の高い学校でも成績はあまり良くない。

注: 指標の正の値は、OECD平均と比較して、個々の学校が地方と国の教育当局よりも責任を負っていることを示している。指標の負の値は、OECD平均と比較して、地方と国の教育当局が個々の学校よりも責任を負っていることを示している。  
出典: OECD, PISA 2009 Database.



## カリキュラムと評価の自律性

PISA2009年調査では、校長に「生徒の評価方針の決定」、「教科書の選定」、「履修内容の決定」、「履修コースの選定」に対して「校長」、「教師」、「学校の理事会、評議会等」、「地方の教育行政当局（都道府県教育委員会）」、「国の教育行政当局（文部科学省）」のどれが責任を持っているのか、回答してもらった。カリキュラムと評価の自律性として、これら4つの活動に「校長」、「教師」が責任を持っているという回答と「地方の教育行政当局」、「国の教育行政当局」が責任を持っているという回答の割合を算出した。

…特に、自律性がアカウンタビリティと結び

ついている場合はそうになっている。PISA調査の結果から、ほとんどの学校が成績データを公にしている学校制度

において、生徒の平均得点は、資源の配置に関する自律性を有した学校の方がわずかではあるが、高い。OECD加盟国全体では、平均37%の生徒が、「生徒の成績は公開されている」と校長が回答した学校に通っている。一方、オーストリア、ベルギー、フィンランド、日本、スペイン、スイス、非OECD加盟国・地域のアルゼンチン、パナマ、チュニジア、ウルグアイ、上海では、生徒の成績を公開している学校に通っている生徒は10%未満である。反対に、イギリス、アメリカ、非OECD加盟国のアゼルバイジャン、カザフスタンでは、80%以上の生徒がそのような学校に通っている。

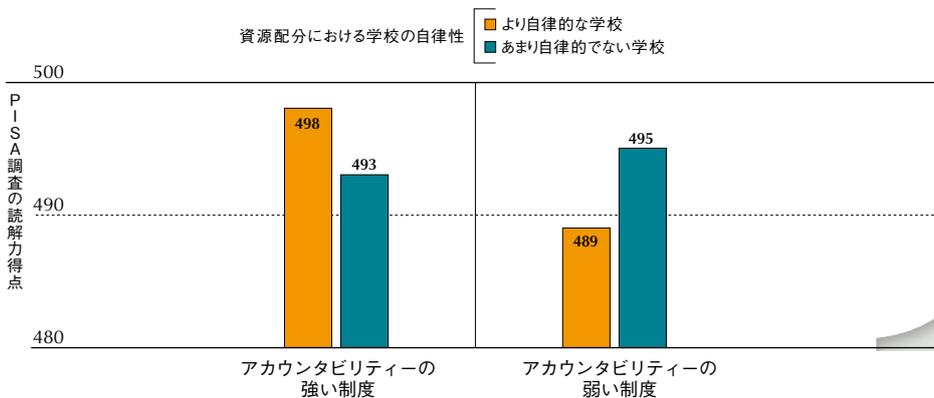
## 資源配置の自律性

PISA2009年調査では、校長に「教師の採用」、「教師の解雇」、「教師の初任給の決定」、「教師の昇給の決定」、「学校予算の編成」、「学校内の予算配分の決定」に対して「校長」、「教師」、「学校の理事会、評議会等」、「地方の教育行政当局（都道府県教育委員会）」、「国の教育行政当局（文部科学省）」のいずれが責任を持っているのか、回答してもらった。資源配置の自律性として、これら6つの活動に「校長」、「教師」が責任を持っているという回答と「地方の教育行政当局」、「国の教育行政当局」が責任を持っているという回答との割合を算出した。



要するに、資源配分における学校の自律性は、ほとんどの学校が成績データを公にしている教育システムでは良い成績とつながる傾向がある。これは、自律性やアカウントビリティに関する政策が、ただ1つの孤立したのではなく、いくつかを組み合わさることで、生徒の良い成績と関係してくることを意味している。

政策と成績の複合的關係



注: すべての学校が成績データを公にしているOECD加盟国の学校制度では、平均的な学校よりも資源配分に自律性を持っている学校に通う生徒は、自律性の少ない学校に通う生徒よりもPISA調査の読解力において得点が5点以上高い。反対に、成績データを公にしている学校が全くない学校制度では、資源配分の自律性が比較的高い学校に通っている生徒は、自律性が低い学校に通う生徒よりも読解力において得点が6点以上も低い傾向があった。これらの結果は、生徒と学校の社会経済的背景の影響を考慮した後も確認されている。

出典: OECD, PISA 2009 Database.

**結論: 自律性とアカウントビリティは関係している。特に学校がアカウントビリティを重視する文化の中で運営されている場合、カリキュラム、評価、資源配分に関する決定の自律性が高いほど、生徒の良い成績と関連する傾向がある。**

本稿に関するお問い合わせ先

担当: Miyako Ikeda ([Miyako.Ikeda@oecd.org](mailto:Miyako.Ikeda@oecd.org))

出典: PISA 2009 Results, *What Makes a School Successful? Resources, Policies and Practices* (Volume IV).

参考サイト:  
[www.pisa.oecd.org](http://www.pisa.oecd.org)

次回テーマ:

「子どもが学校で成功するために親は何ができるのか？」

本稿の翻訳は、日本のPISAナショナルセンターが担当しました。